

みなさんの声を市政に届け、 願い前進のため 全力をつくしました



2月議会で日本共産党市議会議員団は、市民のみなさんの願いを実現するために全力をつくしました。みなさんの世論と運動がみのり、いくつかの点で要求を前進させることができました。

■ 2万4千人の引き下げ署名で、国保料すえおきに

「国保料を引き下げて」と2万4千人余の署名が市に提出されました。引き下げには至りませんでした。今後2年間で38億円を一般会計から繰り入れ、保険料を据え置くことになりました。

■ 地域商店魅力アップ応援事業、小規模工事登録制度が改善

商店等をリニューアルする時に助成する地域商店魅力アップ応援事業の対象業種が今年度から拡大されることになりました。また、中小業者の仕事確保につながる小規模工事登録制度の活用率を上げることを約束させました。

■ 柏崎刈羽原発の再稼働ゆるさない立場を明確にさせる

柏崎刈羽原発が新規規制基準に「適合」の判断を下されても、「福島原発事故の検証と総括がない中での再稼働は認められないという考えに変わりはない」と市長が答弁しました。

■ 就学援助

一 中学校入学準備金が3月支給に

「入学前にお金が必要なのに、8月支給では遅すぎる」という声が絶えなかった中学校入学準備金。市民団体の粘り強いつりくみと党議員団の議会論戦がみのり、今年から3月支給が実現。全国的にも先進的な成果です。

■ 市の臨時・非常勤職員の給与 10年ぶりにアップ

市の職員の4割を占める低賃金の臨時・非常勤職員。党議員団は繰り返し待遇改善を求めてきました。今年度、わずかな金額ですが、10年ぶりに給与がアップすることになりました。また、臨時保育士の勤務年数に応じたベースアップについても「検討する」との答弁を引き出しました。

許せない!

6万人の署名に込められた市民の思いふみにじり BRT住民投票条例案を否決

● 市長が住民投票を否定する「意見書」

市民団体がBRTの是非を問う住民投票の実施を求め、法定数の4.5倍にあたる約6万人の署名を市に提出。篠田市長は住民投票を否定する「意見書」をつけて条例案を2月議会に提案しました。

● 議会・議員の本来の役割が問われた2月議会

議会・議員の本来の役割は市民の声を市政に反映させ、市政をチェックすることです。2月議会では、6万人もの署名に込められた市民の思いを真摯に受けとめるのかどうか、議会と議員の対応が問われました。

日本共産党議員団は、代表質問や一般質問でも、条例案が審議された環境建設常任委員会でも、BRT問題を取り上げ市長はじめ執行部を迫り、さらに最終本会議では、住民投票条例案の可決を求めて討論を行いました。

議会最終日の採決では、日本共産党議員団6人をはじめ賛成の議員が20人に達しました。しかし30人の議員が市民の声に背を向けて反対し、条例案は否決されました。



BRT住民投票条例案への賛否

○ 賛成 (20人)	日本共産党市議団(6人)	渡辺有子、五十嵐完二、飯塚孝子、野本孝子、倉茂政樹、平あや子
	保守市民クラブ(8人)	佐藤幸雄、山田洋子、水澤仁、吉田孝志、平松洋一、荒井宏幸、内山航、高橋哲也
	市民連合(2人)	小泉仲之、石附幸子
	会派に属さない議員(4人)	青野寛一、中山均、深谷成信、小野清一郎
× 反対 (30人)	新市民クラブ(10人)	永井武弘、志田常佳、渡辺仁、渡辺均、田辺新、内山則男、佐藤耕一、佐藤正人、田村要介、伊藤健太郎
	保守市民クラブ(3人)	阿部松雄、古泉幸一、皆川英二
	民主にいがた(6人)	渡辺和光、加藤大弥、南まゆみ、山際務、宇野耕哉、小柳聡
	新潟市政クラブ(5人)	佐藤豊美、金子益夫、金子孝、串田修平、栗原学
	市民連合(2人)	青木学、竹内功
	新潟市公明党(4人)	佐藤誠、小山進、松下和子、志賀泰雄

